

令和5年度 第1回 木の文化都市を継承・創出する金沢会議 発言要旨

日時：令和5年10月18日（水）10:00～12:15

場所：金沢市第二本庁舎2階2203会議室

■議題：令和5年度の事業について

<木の文化都市・金沢の将来像（ビジョン）について>

- ・ 個別の取組も大切だが、一つ一つの活動だけでなく、全体として10年後の市民と共有できる目標を示すべき。重点区域についても、ただのイメージだけでなく、具体的に整備するものがあるのか、全体像として、どのようなまちを目指しているのかメッセージを作るべきではないか。
- ・ 森林が再生されるスケールでは、今の子供たちが大人になる時に、どのような金沢になっているのかという時間のイメージが必要。子供たちに対して、木育という要素だけでなく、次世代にどうつなげていくか、大人が考える視点も必要である。
- ・ ビジョンというものは、ある意味積み上げでは作れない、一種の空想とも言える。そのため、計画作成などとは別のチームで、戦略目標のような形で作るべきではないか。
- ・ 建築物では、木造に関してはかなり法改正がされている。国に対して、ビジョンや実際にどのような建物を作りたいかを示すことで、改正の内容が市にとっても使いやすくなると思う。

<取組のデザインコントロールについて>

- ・ 10年後の整備イメージと共に、全体のデザインを考えるべき。木を使うことは大切だが、バラバラになるのは避けたい。その際には関係部署が多いため、統括する外部のディレクターが必要だと思う。
- ・ まちなかに木を使うことや、街路樹も、デザイナーなどが統一感を持って全体を見る美意識を持ったプロが、どのように進めるか、デザインをコントロールするべきだと思われる。

<木の文化都市の取組を進める上での視点>

- ・ 木材資源の多い日本で、木を使うことは、SDGs もあり今の時代に合った取組だが、そのような大義名分から進めるのではなく、デザイナー、学生、子供など様々な人が木の良さを様々に解釈し、使っていく活動の蓄積が大切だと感じている。
- ・ 木造建築は、見た目ではわかりにくいですが、体験するとわかる良さがある。木を感じる体験が増え、取組が広がっていくような目標設定があっても良いのではないか。
- ・ 本多の森が金沢市の中心部にあることの良さ、これらの心地良さは直感的、体感的なものだが、これらを大切に、まちづくりに活かせると思う。
- ・ 戦後、長く日本は都市の不燃化を進めてきましたが、この方針を変えるにはエネルギーが必要である。現在は転換期にあると思う。これまでの、グローバル・組織といったものに対して、ローカル・個人が中心となるような変化の中で様々な取組が出て議論をしながら進めていくと面白いと思う。
- ・ 耐火木造についてのマニュアルなどの講習も必要だが、それよりも一歩進んだ取組が可能ではないか。木の文化を大切にする金沢だからこそ、ある意味偏った部分もある取組があっても良いのではないか。

<公共建築物の木造化について>

- ・ 先日のイベントで一時的に芝生化したことは良かった。しかし、金沢市役所の庁舎前に木が少ないことは、木の文化都市を目指す都市としては改善すべき点だと思われる。
- ・ これから整備する小学校について、すべて木造とするという方針も効果的だと思う。民間からのボトムアップではなく、公共建築で新しい木造を実現し、引っ張ることも必要ではないか。
- ・ 国の公共建築については、法律に基づく方針で定めた木造化について、かなりのプレッシャーがあると聞いている。何でも木造にというわけではないが、金沢市では先日木材利用方針を改正したところだが、金沢市も木造について先進的な取組を進めてほしいと思う。
- ・ 現状でも教室内部の木質化などは取り組んでいるようだが、小学校の木造化について宣言し、その過程での各種規制などの解決を通して戦略的に取り組む方法もある。秋田県の市町村でも小学校をすべて木造化した例もあるが、例えば街中に、一つでも最先端の木造小学校があることで、木の文化都市・金沢の取組も進み、また子育て世代も街中に魅力を感じる事が期待できるのではないか。